

## 前回（第5回）施策調査専門委員会の意見要旨

検討内容	委員会における主な意見要旨	県の対応案
溪流地点の調査方法について	既に県の森林整備の実績のある箇所と、そうでない荒廃地を比較して調査する方法がよい。	資料2で検討案を説明します。
	施策の効果の検証を目的としても、実際は難しいので、現状調査をして、事業の進捗とともに調査結果の推移を見るという考え方でもよい。	
	試行的に、調査地点を厳選して始めてもよい。	
	自動測定機器による連続測定を基本にして、それが困難な箇所は、人力による測定をする方がよい。	
	強熱減量の調査について、調査のための調査という感じもする。	この調査方法は採用しません。

検討内容	委員会における主な意見要旨	県の対応案
河川モニタリングについて	県民参加型調査は、大勢の参加者を巻き込むことに意味がある。企画の段階から県民が指標を決める等、広く呼びかけることについて如何。	<p>県民参加型調査の目的については、専門家の調査の補完に重点を置く。ただし、県民が参加しやすいように、指標生物を決めること以外は、時期も場所も自由に行っている。</p> <p>今後は、参加した県民の調査結果の紹介や、募集の広報を工夫する。</p>